

世帯と人口

(3月1日現在)

世帯	44,122	(+7)
人口	119,234人	(+38)
男	60,884人	(+10)
女	58,350人	(+28)

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

昭和38年4月ごろの国分寺台一丁目5番地付近(写真左上)、現在は1000戸以上の屋根が並ぶ(写真下)



▲活発な国分寺台講座の様子



えびな模様…国分寺台から

変わる海老名

変わる地域

国分寺台アラカルト

- ◎人口(3月1日現在)
6,534人
(男3,179人・女3,355人)
- ◎世帯
2,375世帯
- ◎面積
0.62平方キロメートル
【市全面積 26.48平方キロメートル】
- ◎地名の由来
相模国分寺の旧跡が、この台地の北側続きに位置することになんて命名された

余裕のある歩道と街路樹。ショッピング、教育、医療、コミュニケーションスペースのある、閑静な住宅街―今回ご紹介する国分寺台では、地域の高齢化が心配される中、住民の力を中心に活力のある地域を目指しています。

講座“通いつながらる住民”

国分寺台は、昭和37年から43年にわたって相模鉄道(株)が開発を進めてきた地域です。座間丘陵南部の通称「浜田峰」と呼ばれる尾根部分のなだらかな平地に1315区画を造成したのが始まりで、同49年まで継続して開発が進められました。

住民の多くは、東京や横浜などの大都市から移り住んできた方で、国分寺台一丁目にお住まいの友田政弘さん(65歳)もその一人。「私が越してきた昭和41年は、駅にもその周りにも何にもなかった。夏はカエルの大合唱、冬は満天の星空…海老名は変わりましたね」と、当時を懐かしみます。また、「見知らぬ者同士が集まってきましたから、自治会活動もはじめは大変でしたが、子どもが住民間の接着剤となつて深いつながりができたと思う」とも。

国分寺台では高齢化が進み、「接着剤」だった子どもたちが減つてしまつている中、身近な問題や教養を学びながら連帯感の向上を目指そうと、平成11年11月から「国分寺台講座」を実施しています。同様の講座は、同年2月に中新田で「コミセン講座」として始まり、杉久保や上今泉でも行われていますが、国分寺台講座の特長は、「純粹に住民の手による講座にしたなら、親しみもわくのでは」という考えから、ほとんどの講師を住民が行つていふことです。内容も、弁護士による「くらしと法律」、洋菓子職人が語る「私の修業時代」など多岐にわたっています。

「この講座が、家にこもりがちな同世代に対し、外に出て活動するきっかけになつてくれればと思います。特に定年を迎えた男性を対象に、魅力的なテーマを検討しています」と運営委員の橋本榮二さん(68歳、同二丁目在住)。

参加者は回を追うごとに増え、若者や他の地域の方の参加もあります。講座を通して生きがいや活力につなげていきたいとする地域住民の思いは、着実に広がりを見せているようでした。